

道

～道はいい 道は大好きだ 道を歩いていこう～

アニメ「ほのほの」のセリフです。

座間市独自の道徳副読本『郷土の先人に学ぶ』

「特別の教科 道徳」で学ぶべき22の内容項目の中に「C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」というものがあります。内容としては「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。」という道徳的態度を養っていくことを目的としています。

そんな中、座間市では市教育委員会の教育研究所が中心となり、『郷土の先人に学ぶ』という独自教材が開発・編集されています。ここで取り上げられる「先人」とは、これまで座間の発展に貢献してきた人々を指し、座間市の小中学生に自分たちの地元の諸先輩から「めざす大人像」を学び、考えてほしいとの思いが込められています。

この「郷土の先人に学ぶ」の資料として最初に取り上げられたのは、明治時代に教育組織「座間幼年会」を設立した鈴木利貞さんと、戦後の地域医療を支えた庵政三さんの2人です。中でも鈴木利貞さんの作り上げた幼年会の活動は、今の市内中学校の活動に大きく影響を及ぼしています。たとえば、幼年会の約束として作られた「柿の木の下での誓い」は座間市の教育指導計画「ひまわりプラン」の「座間っ子八つの誓い」のもととなっています。また、座間市のほぼ全ての中学校でいわゆる「席替え」を他地区のようにくじ引きや教師の判断で決めるのではなくクラス内の立候補や推薦をもとに選ばれた班長、学級委員が班長会議で話し合い、その時々での行事やクラスの状況に合わせて最適な班を作ろうとする「班改正」によって決めるという流れも、もしかしたらこの幼年会の自治的な取り組みの流れを受けてのものかもしれません。

現在、この副読本で紹介されている資料は以下の7つとなります。

【^{すずき}鈴木 ^{としさだ}利貞】 「心豊かな教育を目指した幼年会」

【^{いほり}庵 ^{まさぞう}政三】 「地域医療に尽くして」

【^{たかまつ}高松 ^{ミキ}ミキ】 「座間村女子青年会を育てる」

【^{むらかみ}村上 ^{ミキ}ミキ】 「未来を子どもたちに託して」

【^{ほんだ}本多 ^{ちかお}愛男】 「大風まつりを未来へ」

【^{おおや}大矢 ^{やいち}弥市】 「弥市、黒船を見て学校を作る」

【^{せと}瀬戸 ^{きちごろう}吉五郎】 「座間の生糸を世界へ」



～「郷土の先人に学ぶ」表紙～

東中学校では、例年、本多愛男さんの「大風まつりを未来へ」を2学年で取り扱っています。現在はコロナ禍で大風まつりの実施が見送られていますが、ここ数年、市内6校の中学校（代表者）が参加し、実際に自校の大風（東中学校は「東風」という文字と雲雀の絵が描かれています）を空高く揚げ、その時間を競い合ったりもしています。生徒たちが心を一つにして引き揚げる風が、風によって大空を優雅に浮かんでいる様子を目にするのは、とても爽快で感動的です。学校の教室における授業と、地域行事における実体験とが結びつき、実りある学びが得られる日々が一日も早く戻ってくることを切に願っています。